



市民クラブ
山本 正信
議員

市役所改革について

質問 過去の行政改革で部の数は減ったが、現在部長級職員が各部に複数いる。将来どの程度まで減らす考えがあるのか伺う。

答弁 部の数は、市長部局と教育部局を合わせて平成10年度には9部体制でしたが、平成16年度に6部体制に再編したところです。平成23年度に経済部から農政部を独立し現在は7部体制ですが、今後にも必要に応じて機構改革を進めていきます。

部長級職員の配置は、その時々の方針の推進や職員の年齢構成を踏まえた中期的な組織体制などを勘案しながら配置しているところであり、一時的に複数配置することとは諸課題の解決と行政運営の安定を図る上で一つの有効な策と考えていますが、行政のスリム化を進めている中であって、近い将来は機構に見合った部長級職員の配置にしたいと考えています。

米政策の転換について

質問 国は来年度以降の米政策を大きく転換し、将来米の生産調整を廃止して農家の自主性に委ねるとしている。米の直接支払交付金も平成25年の2分の1とする内容で、約1億7,000万円程度の減額となる予想であり、新たな飼料用米に対する助成も実効性が問われる内容である。米価も下落傾向にあり、市内の米作農家の影響はかなりの額になると予想される。新たな滝川農業の構築を図る必要があると思うが考えを伺う。

答弁 国は行政による米の生産数量目標の配分を5年後を目途に廃止することを表明し、併せて経営所得安定対策を見直すとしています。これらの制度改正により、市内農業者への影響が懸念されることから、新たな制度の詳細について情報を収集し、農家の皆さんに周知するとともに、今後の対応について関係機関と協議してまいります。また、農業者が将来にわたり安心して長期的な視点で営農ができる、安定的かつ継続的な制度となるよう国に要請してまいります。



新政会
小野 保之
議員

観光プランニングについて

質問 観光プランについて市民に意見を募る考えはないのか。また、5か年計画を練り直す考えはないのか伺う。

答弁 現在の滝川市観光振興計画は、平成23年4月に平成27年度までの5か年計画として策定したものです。観光資源の柱を、従来から言われている「花・食・体験」として位置付け、受け入れ体制の確立、広域観光、魅力づくり等を進めていく計画となっています。

今まで市民や観光関係の方がきちんとイメージできていなかった「観光ニーズが団体客から個人客へ」、「見る観光から体験する観光へ」、「外国人観光客の増加」など、近年の観光を取り巻く背景が誰の目にも明らかに変わってきました。本市が賑わいを持ち、市外客による経済効果を高めていくには、市民の皆さんを始めとし、関係業界団体の観光に対する意識改革がよ

り強く求められると考えます。

観光振興計画はあと2年で計画を終えますが、次の計画についても市民の皆さんと知恵を出し合うとともに、その時代に合う計画を策定していく考えです。

新パークゴルフ場との連携について

質問 観光という観点からどのような展開を図っていくのか伺う。

答弁 新しいパークゴルフ場は、基本的には市民の健康増進を主眼に置いていますが、市外から多くの利用者を見込んでいることから、各種パークゴルフ大会を誘致することにより、市内宿泊施設、飲食店等への波及効果も期待しています。近接した滝川ふれ愛の里とも連携し、セット料金を設定する等の各種事業に取り組む環境を整備し、相乗効果が図られるよう協議したいと考えています。パークゴルフ場の運営段階までには、こうした連携についても関係先と調整し、パークゴルフ場利用客の増加を図るとともに、外国人観光客を含め観光客入り込みの拡大に繋げていきたいと考えています。